映画同好会　キネマ月報

2021 年 6 月号（通算第 9 号）

メンバー's エッセー

1.【映画と音楽】　松﨑　浩　P2-3

2.【子供が映画をタダで観る浅知恵　】　三木延義　P4

映画情報　【映画館上映作品情報　2021 年 6 月】　P5-8

【NHK-BSP シネマ放映予定 2021 年 6 月分推薦作品】　P8-11

映画評　＜ノマドランド感想特集Ⅱ＞ ＜その他の映画評＞　P11-15

情報欄　P15-16

映画同好会予定表・新入会員紹介　P17

編集後記　P17-18

メンバー’ｓエッセイ(１)

映画と音楽

松﨑　浩

最近映画はあまり観ていないので思い出話をしたいと思う。洋楽ファンの母親の影響で小学校低学年から映画を見始めた。両親は満州引き揚げ者。熱海市来宮に落ち着き私はそこで戦後に生まれ、その後現在は NHK のある「ワシントンハイツ」近くに引っ越した。土手の向こうの白い家、緑の芝生、TV の「パパは何でも知っている」、「ママは世界一」等豊かなイメージに海外に憧れ、洋楽ポップスの影響を受けて育った。「多感な？」時代に影響を受けた洋画と映画の中の音楽は特に思い出深い。

映画音楽はいくつかのグループに分けられると思う。

・　ハリウッド隆盛時の大型映画で本編開始までのいわゆるオーヴァーチューン：「大いなる西部」、「ジャイアント」、「風と共に去りぬ」、「ベンハー」、「アラビアのロレンス」etc。大西部を幌馬車が駆け、大陸横断鉄道が大地を走る、バイクが疾走する、夕焼けの樫の木背景に壮大な音楽。最後にフェイドアウトしながらカメラがズームインし、登場人物にフォーカスされ物語が始まる。そのわくわく感がたまらない。

・　次に音響効果としての音楽：「タワリングインフェルノ」、「ジョーズ」、「大地震」、の危機３部作は NY 勤務時代に鑑賞。劇場全体が揺れる効果もありそれこそ総毛立つ経験をした。マンハッタンのビル街を歩くのもビクビク、帰りに寄ったワイキキの海には恐ろしくて沖には出られなかった。場面の戦慄感を引き立たせる意味ではヒッチコック映画の恐怖迫る場面で流れる音楽。「サイコ」、「知りすぎていた男」、「北北西に進路をとれ」、「鳥」ではハラハラさせられた。

・　いわゆる音楽映画の中の音楽：コルネット奏者レッド・ニコルスの話「五つの銅貨」。ダニー・ケイ、ルイ・アームストロング・バーバラ・ベルゲディスが別々のフレーズ（Five Pennies, Good Night Sleep Tight, Lullaby in Ragtime）を一緒にハーモニーのように歌うシーンに涙した。「愛情物語」のカーメン・キャバレロが奏でるピアノ曲。エディー・デューチンを演じるタイロン・パワーが「You Are My Everything」をバックに愛する妻キムノ・ヴァクの死に涙を浮かべながら「Merry Christmas」と苦悩の表情でつぶやくシーンは何度観ても感動的。「ベニ―グッドマン・グレンミラー物語」もよかった。また、ヘンリー・マンシーニ、ジョニー・マーサのコンビによる「ティファニーで朝食を」（窓辺で歌う Moon River の切ないメロディー）、「シャレード」もオードリー・ヘップバーンの可憐さと相まって思い出深い映画だ。映画全体に音楽が流れる映画もある。ダスティン・ホフマン、キャサリン・ロス、アン・バンクロフトの「卒業」。サイモンと

ガーファンクルの数々の名曲に心躍った。たまたま大学１年に短期留学で Stanford 大学滞在中に観てアメリカ人の友達に「キャサリン・ロスに惚れた」と話した際、「Mrs. Robinson の方がいい」と言われうぶな自分とませたアメリカ人の差を意識。「アメリカングラフィティ」の「Oldies」オンパレードにも感激。「上流社会」（True Love）のグレースケリーの美しさ（ビングクロスビーとのアンバランスはちょっと抵抗があったが）。

・　ブロードウェイ舞台映画化のミュージカルも外せない。普通に喋っていて突然歌いだす不自然さに若干抵抗あるが、楽曲そのものは好きなものが多い。「オクラホマ」、「回転木馬」、「南太平洋」、「サウンドオブミュージック」、「王様と私」等などロジャース/ハマースタインコンビの数々。シャーリー・ジョーンズのちょっと田舎娘風の可憐さにほっこり。「略奪された７人の花嫁」、「ウェストサイドストーリー」も懐かしい。「略奪・・」の７男坊役のラス・タンブリンが「ウェストサイド」ではジェット団の頭で出てきた時は嬉しくなってしまった。「マイフェアレディ」、「リリー」（「ハイリリーハイロー」を歌うレスリーキャロンが可愛い）。語りから突然歌いだす「不自然さ」が少なかったのは「レ・ミゼラブル」、「ミスサイゴン」あたりか。いずれも感動的な楽曲だった。

・　珠玉の映画主題歌も多い。「カサブランカ」の「As Time Goes By」、「大砂塵」の「Johnny Guitar」ではペギーリー、「ナイアガラ」の「River of No Return」ではマリリン・モンローのしっとりと歌う姿にうっとり。「旅情」のロッサノ・ブラッツイによる「Summer Time in Venice」、ジョーン・フォンティーン/ジョセフ・コットンの「旅愁」の「September Song」もすっかりスタンダードの名曲になった。ウィリアム・ホールデン/キム・ノヴァック主演の「ピクニック」の「Moon Glow」もスタンダードジャズには欠かせない名曲だ。ジャズと言えば「死刑台のエレベーター」でのマイルスデイビスのむせび泣くようなトランペットも渋い。「黒いオルフェ」ではルイス・ボンファのボサノバの新しいリズムに出会った。「第三の男」ではアントンカラスのツィターが新鮮だった。またチャップリン映画では「街の灯」の「花売り娘」、「モダンタイムス」の「Smile」、「ライムライト」の「テリーのテーマ」など名曲は数知れず。「慕情」も丘の上にジェニファー・ジョーンズに想いをはせるウィリアム・ホールデンに自分を重ね合わせたりして。

・　三流映画だが、エルヴィス・プレスリー映画も捨てがたい。「やさしく愛して」（デビュー作）での「Love Me Tender」、「Blue Hawaii」（Blue Hawaii、Can’t Help Falling in Love、Hawaiian Wedding Song」、「夢の渚」（Follow That Dream）etc.

・　他にも「シェルブールの雨傘」、「ポギーとベス」（Summer Time）、「サタデーナイトフィーバー」、ビートルズ映画、ディズニー映画等々思い出せばきりが無い。

以上思いつくまま書いてみた。この手の話を同好の士と語り合える時が早く来ることを願っている。//

メンバー's エッセイ(2)

子供が映画をタダで観る浅知恵

三木延義

私が小学生のころ（昭和 30 年代）は、日本映画の全盛期。テレビもネットもない時代。映画は娯楽の王者だった。

3，4 年生のころは、どの家も貧乏で、まだ映画館に行く余裕もなく、学校の校庭の野外劇場で観た。風ではためくスクリーンに写る「笛吹童子」に興奮をした。

5，6 年生ごろになると親も余裕が出て、たまに映画館に行く小遣いをくれた。馬にまたがって疾駆するアラカンの鞍馬天狗に拍手喝さいをした。当時は、主人公が悪代官を征伐するような場面になると、大人も拍手をしていた。

同じくアラカンが明治天皇になった『明治天皇と日露大戦争』の海戦場面に大興奮（今から見ればちゃちなセットだったのだろう）。

赤胴鈴之助に思い入れをして、「剣を取っては……」と歌いながら映画館を出てきた。

子供たちは、こんなに映画が大好きだったが、親も余裕がないので、そうそう映画を見る小遣いをくれるわけがない。そこで年嵩の子が一計を案じ、集団で入って、前の子が数人分のチケットを渡し、どっとなだれ込むという方法で数名をタダで入れるようにした。

こんな子供の浅知恵なんか、モギリのおばさんは承知の助だっただろう。映画好きの子供たちのいたずらを見逃してくれていたに違いない。映画も人の心ものんびりして時代だった。

（イラスト：筆者）

映画情報

※5 月 6 月は新型コロナ対策のため緊急事態宣言が継続中で、大手シネコンは休業中。 名画座系の小規模劇場のみ稼動中なので、今月に限り大手/名画座の区別はせずに上映される映画の中から推薦作を列挙します。 上映スケジュールは大きく変わる可能性もあるので、鑑賞の際は必ず確認をお願いします。

【映画館上映作品　6 月度】　（推薦者、敬称略）

1.「ブラックバード　家族が家族であるうちに」（2019 年、米英合作、97 分）
6 月 11 日より　（小西）

監督：ロジャー・ミッシェル（ノッティングヒルの恋人）

出演：スーザン・サランドン、ケイト・ウィンスレット

内容：　2014 年製作のデンマーク映画「サイレント・ハート」をリメイクした“家族との絆と覚悟“を観る人に問いかけるヒューマンドラマ。死を前にした最後の晩餐が開かれる。

上映館　：　TOHO シネマズシャンテほか、全国ロードショー。

2.「逃げた女」（韓国、2020 年、77 分）6 月 11 日より　（真木）

監督：　ホン・サンス（それから、三人のアンヌ）

出演：　キム・ミニ、ソ・ヨンファ、ソン・ソンミ

内容：　主人公ガミは結婚生活で一度も離れたことがなかった夫の出張中に、3 人の女友達を訪ねる。旧友との再会、親密な会話で主人公の中で少しずつ何かが変わり始めた。

上映館：　HT 有楽町など

受賞歴：　第 70 回（2020 年）ベルリン国際映画祭監督賞授賞

3：「デニス・ホー　Becoming the Song」（香港に自由を）（アメリカ、2020、ドキュメンタリー 83 分）　6 月 5 日より　（真木）

監督：　スー・ウイリアムズ

出演：　デニス・ホー

内容：　2014 年香港で起きた「雨傘運動」。警官隊の催涙弾に対抗して雨傘を持った若者たちが街を占拠した。 この運動に一人の歌手　デニス・ホーがいた。彼女は学生たちを支援したため、逮捕され中国のブラックリストに入った。一人のアーテイストが民主活動家へと変貌していく。2019 年「逃亡犯条例」改正に反対する数百万のデモ参加者に彼女の姿があり、催涙ガスと放水と闘っていた。

上映館：　シアター・イメージフォーラム（渋谷）電話０３－５７６６－０１１４、
横浜 J&B 電話０４５－２４３－９８００

受賞歴：サンフランシスコ映画祭、シンガポール映画祭　正式出品作品

4.「戦火のランナー」（アメリカ, 2019, 88 分）　6 月 5 日より　（真木）

監督:　ビル・ギャラガー

出演：　グオル・マリアル、

内容：　グオル・マリアルはスーダン内戦を生き延びるため走って逃げた。
走り続け、走ることをあきらめなかった彼には、オリンピックの栄光の舞台
が待っていた。力強い、感動的な実話。

上映館：　シアターイメージ　フオーラム

5.「1 秒先の彼女」（台湾、2020 年、119 分）6 月 25 日より　（真木）

監督　チェン・ユーシュン

出演　リウ・グアンテイン

内容：　２人の間のちょっとした時差から生まれるかってない奇跡に笑い、涙する。

上映館：　ヒューマントラスト有楽町　６２５９－８６０８

受賞歴：　台湾アカデミー賞 5 部門受賞

6.「いとみち」（日本, 2021 年、116 分）6 月 25 日より　（真木）

監督：　横浜聡子

出演：　豊川悦司、駒井蓮

内容：　三味線が得意な弘前市の高校生　相馬いとの成長、仲間や家族とのきづなが描かれる。「いとみち」は三味線を弾くときに爪にできる「糸道」をさす。

上映館：　新宿武蔵野館　電話３３５４－５６７０

受賞歴：　大阪アジアン映画祭　グランプリ、観客賞受賞

7.「旅の重さ」（日本、1972 年、90 分）6 月 6 日～12 日　（真木）

監督：　斎藤耕一

出演：　高橋洋子、高橋悦史

内容：　男出入りの多い母親との生活に疲れて、四国遍路の旅に出た少女が様々な経験、出会いを経て大人になっていく。

上映館：　ラピュタ阿佐ヶ谷　電話　３３３６－５４４０

受賞歴：　1972 年キネマ旬報　ベストテン第４位（国内）

8.「女たち」（日本、2021 年、97 分）6 月 1 日　より（本田）

監督：内田伸輝（6.1～

出演：篠原ゆき子、倉科カナ、高畑淳子、サヘル・ローズ、窪塚俊介。

内容：４０歳を目前にした独身女性・美咲は、母の介護をしながら地域の学童保育所で働いています。　娘を否定する母との葛藤。親友の突然の自死に心が折れ、社会の分断と不寛容を見て、周りの人間が自分を排除しているという恐怖感を持ちます。コロナ後の社会を描いています。

上映館：kino cinema ＭＭ

9.「幸せの答え合わせ」(イギリス、2018 年、100 分) 6 月 4 日より　（本田）

監督：　ウイリアム・ニコルソン

出演：　アネット・ベニング、ビル・ナイ、ジョシュ・オコナー

内容：　２９年間連れ添った夫婦。ある日突然、優しく誠実だった夫から離婚を切り出されます。両親の別れに、一人息子は悩み動揺します。それぞれに自身の生き方や人間関係を見直し始めます。

上映館：kino cinema ＭＭ、kino cinema 立川高島屋

10.「トゥルーノース」(日本・インドネシア合作、2020 年、アニメーション 94 分)　（本田）

監督：　清水ハン栄治（1970 横浜生、在日コリアン４世）

内容：　北朝鮮強制収容所、世界で最も過酷な場所で生き抜こうとする日系家族とその仲間たち。３Ｄアニメで描く衝撃の人間ドラマ。

上映館：ＴＯＨＯシネマズ・シャンテ、kino cinema ＭＭ、MOVIX さいたま、ＴＯＨＯシネマズ川崎

受賞歴：　ワルシャワ国際映画祭審査員特別賞他多数受賞

11.「Ｍｒ.ノーバディ」（アメリカ、2020 年、９２分）　（横山）

監　督：イリヤ・ナイシュラー

出　演：ボブ・オデンカーク、コニー・ニールセン

上映館：TOHO シネマ、イオンシネマ、１０９他

内　容：主人公のハッチは、外見は地味で、目立った特徴もなく、退屈な日々を送る何者でもない男（ＮＯＢＯＤＹ）。ある日バス内でのチンピラとの対決から変身する・・・・。コロナ禍で鬱々とした日々に見る痛快なハード・ボイルドアクション。

12.「ハチとパルマの物語」　（日本/ロシア、2020, 120 分）　（梶間）

監督：アレクサンドル・ドモガロフ・Jr

出演：レオニード・バーソフ、ビクトル・ドブロヌラボフ

内容：推薦したい作品があります。1976 年にモスクワ空港でおきた忠犬パルマの奇跡の実話

泣けました❗今日観てきましたがとても良かったので推薦します。

上映館：　シネスィッチ銀座　ヒューマントラスト渋谷　109 港北　109 シネマズ川崎　などで上映

※この作品をロシア人芸人のピロシキーズが、Youtube で感想を述べていて、それなりに楽しめますので、下記リンクを貼っておきます。（編集局）

https://www.youtube.com/watch?v=MyimGFv6SjE

【NHK-BSP シネマ放映予定 6月放映推薦作品】（推薦者　石毛）

（１）「アラビアのロレンス」（1962 年、イギリス）（放映日　6 月 3 日 13 時～）

監督：　デビッド・リーン

出演者：　ピーター・オトゥール

内容：第一次世界大戦中、中近東の支配をねらうトルコ軍から、アラブを守る為、反乱を指導。アラブの民から英雄とうたわれた英国軍人ロレンスの波乱にとんだ半生を壮大に描く。

現代の混迷した中東情勢を考えさせる作品。アカデミー作品賞、監督賞、美術賞、音楽賞、編集賞、作曲賞を受賞した名作。４Ｋでデジタル修復したレストア版。

（２）「カラミティ・ジェーン」（1953 年、アメリカ）　（6 月 4 日 13 時～）

監督：ウイリアム・ジェイコブス

出演者：ドリス・デイ

内容：実在の女性ガンマン、カラミティ・ジェーンと早撃ち名手ビル・ヒコツクの恋を描くミュージカル・コメディー映画。アカデミー歌曲賞を受賞。

（３）「史上最大の作戦」（1962 年、アメリカ）　（6 月 7 日 13 時～）

監督：ケン・アナキン他

出演者：ジョン・ウエイン、ヘンリー・フォンダ、ロバート・ミッチャム

内容：1944 年 6 月のノルマンディー上陸作戦をドキュメンタリー・タッチで映画化、壮大なスケールの戦争映画。連合軍・ドイツ軍・フランスレジスタンスなどの視点から描いたもの。迫力ある戦闘場面、人間ドラマ、エピソードあり。アカデミー撮影賞、特殊効果賞を受賞。

（４）「炎のランナー」（1981 年、イギリス）　（6 月 8 日 13 時～）

監督：ヒュー・ハドソン

出演者：ベン・クロス、イアン・チャールソン

内容：1924 年、パリ・オリンピックで陸上の金メダリストとなった二人のイギリス人が、苦悩を抱えながら、栄冠を勝ち取るまでを描く。ユダヤ人への偏見に立ち向かうために走るハロルド・エイブラハムズ、聖職者として神の為に走るエリック・リデルの良きライバル関係を軸にした映像。アカデミー作品賞、衣装デザイン賞、脚本賞、作曲賞を受賞。大ヒットした主題曲は、2012 年のロンドン五輪でも使われた。

（５）「北北西に進路を取れ」（1959 年、アメリカ）　（6 月 9 日 13 時～）

監督：アルフレッド・ヒッチコック

出演者：ケーリー・グラント

内容：アルフレッド・ヒッチコック監督の代表的なサスペンス映画。人物を誤認され、殺されそうになる主人公、国際的な陰謀に巻き込まれる。スピーディーな展開と絶妙なユーモア、歴代大統領の巨大な彫刻のあるラッシュモア山でのクライマックス。

（６）「市民ケーン」（1941 年、アメリカ）（6 月 15 日 13 時～）

監督：オーソン・ウェルズ

出演者：オーソン・ウェルズ

内容：オーソン・ウェルズ 25 歳の作品。初監督、製作脚本、主演を務めた。莫大な資産と権力を持つチャールズ・F・ケーンが亡くなり、バラのつぼみの意味を探る調査が始まった。権力者の半生を複数の視点で回想する構成、視覚効果を駆使した映像表現等、以降の映画作家に影響を与えた作品。アカデミー脚本賞のみ受賞。但し、現在は傑作として評価されている。

（７）「クレオパトラ」（1963 年、アメリカ）（6 月 17 日 13 時～）

監督：ジョセフ・L・マンキーウイッツ

出演者：エリザベス・テイラー、リチャード・バートン、レックス・ハリソン

内容：エリザベス・テイラーが、絶世の美女として有名なエジプトの女王クレオパトラを演じた超大作。王位継承の内紛に介入したローマ帝国のカエサルは、クレオパトラと結婚するが暗殺されてしまう。後、アントニウスとクレオパトラは、恋に落ちる。豪華絢爛な美術と衣装に圧倒される。ローマ史を知っておくと、楽しめる作品です。アカデミー撮影賞、美術賞、衣装デザイン賞、視覚効果賞を受賞。

（８）「ガンジー」（1982 年、イギリス／インド）（6 月 24 日 13 時～）

監督：リチャード・アッテンボロー

出演者：ベン・キングスレー、キャンディス・バーゲン

内容：裕福な家に生まれたインド人のガンジーは、ロンドンで法律を学び、弁護士として南アフリカにわたる。人種差別を目の当たりにし、公民権運動に参加。非暴力、不服従をスローガンにインド独立を目指すが--。インド、パキスタンの分離独立や、ネールの立ち位置まで描いている。宗教戦争（ヒンズー教、イスラム教）も描かれており、今日的課題も考えさせられる。激動の生涯を壮大なスケールで描く。アカデミー賞 8 部門を受賞／作品賞、監督賞、主演男優賞、脚本賞他。

（９）「追憶」（1973 年、アメリカ）（6 月 28 日 13 時～）

監督：シドニー・ポラック

出演者：バーブラ・ストライサンド、ロバート・レッドフォード、

内容：1930 年代から 1950 年代を背景に、性格や考え方が全く違いながらも深く愛し合う男女。時代の波にのまれ、別れていく姿が切ない。アメリカにおける赤狩りの要素も背景にある。バーブラ・ストライサンドが歌う主題歌が大ヒット。アカデミー賞作曲賞、歌曲賞を受賞。

（１０）「ピンポン」　（2002 年、日本）　（6 月 29 日 13 時～）

監督：曽利文彦

出演者：窪塚洋介、井浦新、中村獅童、竹中直人

内容：人気コミックを、宮藤官九郎の脚本で映画化した青春スポーツ映画。幼馴染で対照的な性格の二人の友情を軸に、ライバルとの壮絶な試合を CG 映像で描いている。

※今回の選定ポイントは、歴史、アカデミー賞、製作方法、ミュージカル、戦争、アニメ原作、ラブロマンスなどを考慮し選定致しました。（石毛）

映画評

＜ノマドランド感想特集　Ⅱ＞

※先月号では、ノマドランド感想特集Ⅰとして、真木/小西/本田/寺崎/横山/石原/菅原、各氏のご感想を掲載しました。 今号では引き続きノマドランドの感想Ⅱを掲載いたしました。 投稿いただいた平尾/横山両会員にお礼を申し上げるとともに、それ以外の作品への感想をいただいた皆さまにも感謝申し上げます。（編集部）

（平尾光司）　「ノマドランド」

アメリカ映画の伝統的なジャンルに「流れ者」がある。飄然と現れて悪をこらしめ風のように去っていき定住をしない孤独な英雄である。「シェーン」「ローハイド」「荒野の用心棒」をはじめ多くの名画が想い出される。

「ノマドランド」は現代アメリカの流れ者をテーマにしている。流れ者の馬や幌馬車はキャンピングカーに変わり、仕事も牛追いからアマゾンの配送センターでのパッキングに変わり 21 世紀の現実が映し出される。

変わらないのは西部の雄大な風景と人を結びつける人情である。人情は流れ者のキャンプ生活者の間での生活物資の交換、仕事情報の紹介などの助け合いで描かれる。

しかし、人情は流れ者同士だけでなく主人公のおんぼろキャンプカーが故障して大修理が必要になった時に修理代を提供する妹の家族愛にも表れている。寅さんとさくらの兄妹愛を想いだされるシーンもある。

ところで主人公がキャンピングカーの路上生活者になったのはリーマン・ショックで勤務先企業が倒産しためという解説が多い。しかしこれは正確ではない。主人公の住んでいた町はネヴァダ州にあった大手建材メーカー、US・GYPSUM の企業城下町であった。同社の倒産は石綿公害訴訟敗れて莫大な補償金が発生したためである。その後いくたびか身売りされ再建が試みられたが衰退が続き。リーマン・ショックで止めを刺された経緯がある。

アマゾンの配送センターの現場が垣間見えるのも面白かった。最近、アマゾンの労働者組合結成の動きが失敗したのはノマド労働者が労組になじまないことも一因かと思った。
この感想文を準備中に本作品がアカデミー賞３部門受賞（監督賞、作品賞、主演女優賞）のニュースが飛び込んできた。中国系の女性クロエ・ジャオ監督の主演俳優、男優以外はすべてノマドをエキストラとして活用した映画作りも才能を感じさせられた。主演女優のフランシス・マクド―マンドのノマド生活の孤独に淡々と耐えて生き抜いていく演技も素晴らしい。撮影賞にノミネートされたが受賞は逃した。西部の雄大な風景、ノマドたちのキャンプ生活を詩情豊かに撮影したジョシュア・リチャード撮影監督にも拍手を送りたい。

アカデミー賞授賞式で主演女優とプロデューサーを務めたマクド―マンドが受賞スピーチで「この映画は大きなスクリーンで見てください。親しい人と映画館に行き、その暗闇の中で隣の人と肩と肩を触れ合わせながら見てください」と訴えた。その言やよしと納得する映画である。//

（横山洋）「ノマドランド」

リーマンショックで職も住いも失った初老の女性ファ―ンは、亡き夫の思い出と共に古びたキャンピングカーで、季節労働者として各地を渡り歩く。美しく或いは厳しい大自然の中で、人はあまりにも小さく、ノマド（遊牧民）は、自己主張もせず他を否定もせず、互いの存在を尊重し出会いを大切にしてその日を生きていく。各種ヘイトが激しい現環境下で、清々しい思いがする。

一方、車内のバケツに排泄するような厳しいノマドの生活を、敢えて選ぶファ―ンの心境にやや違和感がある。また、悪戯に主張をしないのがこの映画の主張するところであろうが、それだけに、見た後でさしたる感動が残らないのが物足りない。//

＜それ以外の作品評＞

（本田安弘）「ファーザー　The father」

認知症の老父と世話をする娘、親子の愛を描いています。物語は過去と現在、事実と幻想が交錯します。正に認知症の老人の視点です。老父の饒舌な言葉と強い思い込みに戸惑いながらも、現実を伝えたい娘の葛藤。

老人は名優アンソニー・ホプキンス、娘はオリヴィア・コールマン。二人の遣り取りは実に自然で冷静であり、お互いに滲み出る慈しみがあります。最後に、落着いた介護施設で、母を思い泣き出す老人の現実の姿が見えてきます。

物語は殆ど室内で展開されます。原作は大ヒットした舞台劇（フランスの作家、フロリアン・ゼレール。自ら監督もしています）だけに練られたセリフが次々と出てきます。壊れゆく父と世話をする娘の悲しくて寂しい物語とも言えますが、何となく暖かい。今年のアカデミー賞、主演男優賞、脚色賞を受賞しました。//

(菅原信夫)「ブックセラー　Book Sellers」「パブリック図書館の奇跡、The Public」

4 月 5 月で、書籍にまつわるアメリカ映画を 2 本観ました。西欧人の古書へのこだわりをテーマにしたのが前者、図書館の機能・意味をテーマにしたのが後者。 ともに大変知的な映画です。 前者はブックフェアーが大事な舞台となっていますが、それはニューヨークブックフェアのような大型のものから、隣近所で開かれる古書ショップが道沿いに本を並べるような古物市のようなものまであります。 ボストンにいた頃、行きつけの本屋の外壁沿いの歩道に箱をならべて本を売っている人たちがいて、本屋の商売を邪魔しているのではないかと思ったのですが、今になって思えば、古書を売っていたのです。新本を求める人はドアの中へ、古書は外でと、うまく住み分けができていたのですね。　映画では、朝、車で現場に到着して本の入った箱を運び出し、歩道に並べ、夕刻になると、売れ残った本（売れた本の方が圧倒的にすくない）を再度車に戻す、肉体労働の場面が出てきます。重い箱を運搬中の古本屋さんにインタビューするのですが、彼は、この本の重みがなければ、古本商売はあまりの面白さに天に舞い上がっていってしまう、とジョークを飛ばします。 そんな本に愛情を持つ多くの人たち、離婚騒ぎで時の人となったビル・ゲイツが競り落としたレオナルド・ダヴィンチのレスター手稿といわれる古書など、希少本が紹介されて、西欧における古書のステータスと人気の高さにびっくりでした。 全くの私見ですが、活版印刷が発明されて以降の西欧の古書は読解が容易で、現代人でも初版のシェークスピアを読み解くことができます。 一方日本は、19 世紀の書物でも現代人にはその文章を読解することは至難です。 このあたりに日本で古書が一部の好事家のものに限定されている理由があ

るのではないでしょうか。 2 本目は、The Public。日本題名よりも英語の方がこの映画の意図がよくわかります。 図書館というのは民衆の知を守り、そして生存を守る。 そんな役割を見事に描いている作品です。 現実にアメリカの図書館にはホームレスが一時大量に訪れ、一方、静粛な空間で（そして無臭の中で）読書を希望する人たちからクレームがでた時期があり、その実話が本作のベースになっているそうです。 アメリカの図書館は、皆さんもご存知と思いますが、ほんとうに至れり尽せりの設備があって、単に本を探し、読書するだけの場所ではありません。 ある意味、アメリカという国の知性を守っている存在です。そんなことを考えさせてくれる良い映画でした。 映画館は近所の川喜多映画記念館でしたが、その 50 席は満席でした。 こういう作品に関心を持つ人々がコロナの中でもこれだけいる、とわかっただけでもホッとしました。//

（小西順）「ミナリ」

連休明けの 5 月 6 日に「ミナリ」を観てきました。

本作はご存知のように米国に移民してきた韓国人家族がアーカンソーで韓国野菜の栽培生育事業に苦闘するストーリで、「ノマドランド」に比べると常識的（或いは、伝統的？）な作品だと思いました。

また、随所にキリスト教的な場面が挿入されており、韓国がキリスト教徒の多い国であると改めて認識しました。

最後のクレジットにブラッド・ピットの名前があったので、家に帰って調べたところ彼が率いる「プラン B」が本作の製作かかわっていることを知り判り驚いた次第です。//

（岩佐俊明） **「シックスセンス」**

何日か前に、NHK BSP に録画してあったのを夜中、初めて観ました。

題名からして、サイコ・ホラー映画と思っていました。

まじめな小児精神科医：マルコム役をブルース・ウィリスが演じ、「ダイ・ハード」に代表されるような、アクションものとは違う彼の 1 面を見ました。

また、少年：コール役ハーレイ・ジョエル・オスメントの、なんと可愛い、あどけない顔だったことでしょう！

それと、コールの恐怖におののいた顔、母親とのやるせない会話の場面やマルコムと真剣に話す場面などの演技には目を見張るものがありました。

最後のどんでん返しには恐れ入りました!

「えーっ!!!そうだったのか!」 なーるほどと思い、時間も忘れて、初めから再度、じっくりと観てしまいました。

二度目は、各々のシーンごとに納得のいく、細かい、伏線が引かれている描写が分かり、死人（幽霊）の怖さ、恐ろしさより、切なさ、つらさ、無念さを伝えたいという、
この映画に対する私の見方が変わりました。
また、なんといっても最後の、車の中でコール親子が分かり合うシーン、マルコム自身が死んでいたことや妻がずっと忘れずにマルコムを想っていたことが分かったシーンなどは、
感動！の連続でした。　　何度見てもいい映画の一つです!//

（小西順）「アンモナイトの目覚め」
今日は、緊急事態宣言が発令される前にと思って「アンモナイトのめざめ」を見てきました。19 世紀、イギリスの海岸沿いの村に住み観光客相手に化石ショップを営む人間嫌いの女性と、そこにやってきたロンドンの裕福な地質学者の妻が互いにひかれあう。イギリスの冬のどんよりとした陰鬱な気候を背景に二人の女性が愛し合う展開ですが、全体的に暗い物語でまずまずの映画でした。//

【情報】

※今号より、映画関係の出版物、講演会などの情報も掲載することになりました。
皆さんが目にされる情報がこの欄を作ります。 どしどし編集局にお送りください。

今月の映画本紹介
（鈴木）「チャップリンの影　日本人秘書　高野虎市」（大野裕之著　講談社
平成 21 年発行）※鈴木さんの紹介文は次の URL をご覧ください。
https://1drv.ms/w/s!Asx-lQ2YugdpkwDPlo5IrIzw6zQK

（石毛）“The New Nomads: How the Migration Revolution is Making the Word a Better Place” (現代の遊牧民「ノマド」の生き方)
映画ノマドを下名見ておりませんので、至急見なければとの思いですが、
DF の企業支援の一社の＜情報工場＞から、ノマドに関する
本の要約の送付がありました。以下の通りです。
5 月 27 日付け配信
海外書籍紹介（イギリス）

The New Nomads:

How the Migration Revolution is Making the World a Better Place

『現代の遊牧民「ノマド」の生き方』
–「移動」「移住」することのメリットとは
Felix Marquardt 著
Simon & Schuster UK
2021/07 予定 288p
1. 移住が生み出す変革力
2. 成功への道
3. 世界規模の移民
4. 旅立ちのエネルギー
5. 脱出！
6. 難民と地域—「出てきたところへ帰れ（帰るな）」
7. レッテル貼りの限界
8. 「デジタル移民」の光と影
9. 放火魔の消防隊
結論　遠回りして帰ろう
書籍は、もうすぐ出るでしょうが、面白い観点の評論です。

（三木）　「キネマの神様」（2008 年、原田マハ著）
8 月公開予定の映画「キネマの神様」の原作を読みました。
著者は原田マハ。キュレーターで美術に関する小説を多数出しています。
文芸春秋から 2008 年に初版が出ており、映画愛が溢れる内容です。

映画では主人公の女性の父親を志村けんが演ずる予定でしたが、
彼がコロナで亡くなり、沢田研二が代役を務めるようになりました。
原作を読み、志村けんがぴったりのはまり役だと思われました。
沢田研二がどう演じるか楽しみです。
ぜひ観たいと思っています。
しかし、志村けんは　NHK　の連続テレビ小説「エール」で山田耕筰役で本格的に役を演じましたが、彼が役者を続けていたら、素晴らしい俳優になったのではないかと残念でなりません。コメディアン出身では伊東四朗に並ぶのではないでしょうか。//

映画同好会予定表・新入会員紹介

６月 20 日の緊急事態宣言解除まで、予定は立てておりません。
今しばし、頑張りましょう！

【新入会員ご紹介】
お若い（40 才）新入会員をご紹介します。（真木）
名前　犬養岬太
（略歴）
１：1981 年誕生
２：2004 年早稲田大学法学部卒業
　　大和証券株式会社入社
３：光陽社（印刷会社）入社
４：光陽社代表取締役社長
住所、電話、メール等は名簿で後日ご連絡いたします。

編集後記

今号を編集している時に、飛び込んできた映画関係の大ニュース。

「アマゾンが MGM を買収」 85 億ドル（日本円 9200 億円）の大型買収劇です。 この買収により、アマゾンは 1919 年からここまでの MGM 作品を手にいれることになります。 買収対象には 4000 本の映画、17000 本のテレビ映画が含まれ、180 本のアカデミー賞受賞作品、100 本のエミー賞受賞作品も入っているそうです。 アマゾンプライムを通して MGM 作品を配信することで、眠っていた作品にもようやく陽が当たることになるので、この買収は映画界のために有益である、と ABC は報じております。　以前、007 の新作"No Time to Die"の公開がコロナ禍の影響で遅れに遅れて、MGM は制作費に当てるために組んだローンを返済することができず、大ピンチだと書きましたが、身売りが結論でした。　2020 年代の映画界は、興行の舞台が映画館から配信型に置き換わるという Netflix に代表される大転換期にありますが、コロナ禍はこれを加速化しており、MGM に続く買収案件が続くと思われます。

その理由の一つは、買収額が天文学的な金額ではない、ということです。 2014 年にサントリーが JimBeam を買収したときは、136 億ドルでしたから、日本の M&A レベルで考えても、不可能と思える買収額ではありません。　問題は資金の有無ではなく、過去の映画作品をどのように使い、アマゾンの未来につなげてゆくアイデアがあるか、ということでしょう。 アマゾンプライムを見て感じるのは、プライムの年会費を払うことで、EC での急送便料金から、HD レベルの音楽ストリーミング、キンドル、そして配信映画までほぼ無料で利用できることです。 あらゆる商品がその形態を問わず、アマゾンを通して自分のものになるのです。 この便利さを一度知ってしまうと、それは麻薬のようなもので、アマゾンなしの生活は考えられなくなります。

でも、その裏側が現代のノマドたちによって支えられていることは、すでに映画感想欄のノマド特集で平尾さん以下、皆さんが気づかれた点です。 労働者としてのノマドは労働組合結成を否定し、引き続き自由人としてのプライドを持って生きてゆく。 21 世紀の我々のアマゾン依存生活を支えるのが実はノマドという「現代の流れ者」の集団だという、映画のような話。 その映画界に M&A を経て登場するアマゾンの姿。 映画と現実がここまで融合してゆく時代を我々は生きているのです。（菅）

キネマ月報 2021 年 6 月 1 日発行（通算第 9 号）
©DF 映画同好会
発行人：真木郁夫
編集部：菅原信夫
連絡先：　sugahara@directforce.org